

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大谷 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、数学に関する調査)」、文部科学省が指定した日(4月14日から4月17日の間)に「教科(理科に関する調査)」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

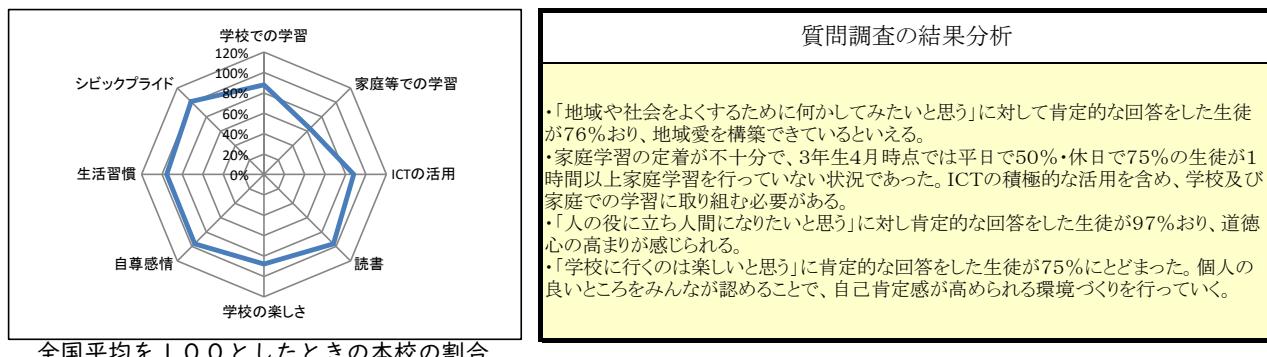
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」については、全国平均と差異は見られないものの、「書くこと」「読むこと」について「根拠を明確にして考えること」について課題が見られる。読書活動の充実に伴い「文章の構成や展開について考えること」はよくできている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「話すこと・聞くこと」	
	努力が必要な問題	「書くこと」「読むこと」	
数学	全体的な傾向や特徴など	「確率」「証明」については全国平均を上回る正答率である。しかし全体的に無回答率の割合が高く、「知識・技能」の面で課題がある。ICT等を活用しながら、基礎的・基本的な学力の定着を目指していく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	証明や判例をもとに考えること、確率に関する事項	
	努力が必要な問題	「関数」に関する問題、「図形」に関する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱とする領域については全国平均を上回る正答率のものが多いが、「生命」を柱とする領域については課題が見られる。既習事項の知識をもとに、物事を多面的・多角的にとらえる学習が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「エネルギー」を柱とした領域、「粒子」を柱とした領域	
	努力が必要な問題	「生命」を柱とした領域	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

昨年度に引き続き、全教科でICT機器を活用した授業推進に取り組んでいる。個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びの実践のため、学校全体で授業改善を進めていくことが必要である。また家庭学習の充実を図り、基礎的・基本的な学力の定着を図っていく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

基本的な生活習慣・規範意識等はきちんと確立されているが、家庭学習の定着に課題がみられる。定期検査に向けての学習はできているものの日々の復習については、不十分な生徒が多いように見受けられる。また、人の役に立つ人間になりたいと思う生徒はとても多いが、自分にはよいところがあると思っている生徒は平均以下なので、個々のよいところをほめ、様々な教育活動の中で自信がもてるような取組を随時行なっていきたい。